



かわにし

川西高等特別支援学校
学校だより 第22号
令和4年1月21日

with マスクのコミュニケーション — 新年にあたり

校長 小 塚 さとみ

新年明けましておめでとうございます。令和の世も早や4年目。本年も変わらぬご支援をよろしく
お願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスが中国武漢市で発生してから約2年が経ちましたが、コロナ禍と呼ばれる
不自由な日常が依然として続いています。マスク着用、手指消毒、三密回避が基本的な感染症対策で
あることは誰が何と言おうと当たり前で、街頭でもすれ違う人々のほとんどがマスクを着けてい
ます。素材やデザインのある白無地以外のマスクもよく目にするようになり（私も不織布の柄マスクを
愛用していますが）まさしく with コロナ、with マスクの時代であると言えます。マスク着用が日
常化することにより私達の外見が変わったことはもちろんですが、身だしなみ、習慣、コミュニケー
ションなど、様々な変化が生まれています。

例えば、身だしなみへの気遣いや習慣については、女性では化粧をしなくなった、あるいは最低限
の化粧だけにする、男性ではヒゲを剃らなくなった、気にしなくなったという人が多いことが様々
な調査から報告されており、これは“すっぴん隠し”のメリットとして捉えられているようです。こ
の他にも、コンプレックスになっている部分を隠せる、小顔に見える、読まれたくない表情を隠
せるなどがメリットとして挙げられていました。

コロナ禍の収束が見通せない以上、マスク着用はやむを得ないことではありますが、長引くマスク
生活は上記のメリットだけではなく弊害をもたらしていることは否めません。また、メリットは
果たしてメリットと言えるのかどうかとも思います。新型コロナウイルスが発生する以前、若者の
「だてマスク依存症」がある意味社会問題となっていました。対人恐怖や社会不安を軽減するため、
マスクを心理的な壁として緊張感や羞恥心を解放しようとする行動がコミュニケーションの問題と
なっていたのです。このことから、with マスクのコミュニケーションというのは、とても重要なもの
であると考えられます。

まず、初対面の人の顔が覚えられないこと。そして、口元の表情がわからない目だけのコミュニケー
ションでは意思疎通が十分ではないこと。さらに、声の大きさが抑えられ聞き取りにくいこと。コ
ミュニケーションとは、相手が発する言葉に加え、声の質や息遣い、細かい表情の変化、自分か
ら発する言葉への反応など、これらすべてを感じて初めて成り立つものです。ですからマスク着用時は、
ゆっくりはつきり話すことを心掛けましょう。また、相手の反応を見ながら、アイコンタクトでちゃ
んと伝わっているか確認しましょう。うなずきや相づち、身振り手振りなどのジェスチャーも有
効です。マスク着用時は自分で思っている以上に相手に感情が伝わりにくいということを認識し、
それを補うことが必要です。

生徒はまだ人格形成に重要な時期を過ごしています。目だけで情報が通じ合うのは大人だけであり、
子どもは表情の中の情報を少しずつ理解し、読み解けるようになって成長するのです。マスクで口元
を覆い、向い合う対話を避ける生活が続くことで、人間関係をうまく結べない大人にならないよう、
この1年もまた、コミュニケーションの力を育んでいきます。



